

令和5年度「長久手市役所の仕事」通知表”の作成（外部評価）③

令和5年9月25日 開催概要

開催概要	
会議等の名称	令和5年度行政評価・外部評価③ 「大学連携事業」【たつせがある課】
開催日時	令和5年9月25日（月） 午後2時30分から午後3時30分まで
開催場所	市役所西庁舎2階 第7・8会議室
出席者氏名 （敬称略）	<外部評価実施者（行政改革推進委員）> 室淳子、樋口和則、細萱健一、安立憲市、近藤恵美子 <担当課> くらし文化部長 門前健 課長 名久井洋一 主事 鈴木茉奈佳 <事務局> 総務部長 加藤英之、総務部次長 福岡隆也、 行政課長 若杉雅弥、課長補佐 水草純、庶務係長 佐藤雄亮
傍聴者人数	1人
問合せ先	長久手市総務部行政課 0561-56-0605
備考	

外部評価実施者の 質疑、意見等	<p>（委員）</p> <p>大学に行事への参加協力依頼をしたときの学生の反応はどうか。 ⇒今年度はイベントの実行委員会としての学生募集を行ったが、それぞれの大学で計40人程度の参加があり、良い集まり具合であったと考える。</p> <p>（委員）</p> <p>参加する学生は、どんな学生が多いのか。個人、ボランティアサークル等。また、どのように募集案内が周知され、申込みがあるのか。 ⇒個人、団体どちらの申込みもあるが、個人での参加が多い傾向である。学校のポータルサイトでボランティア情報として周知され、参加する場合は市に直接申込みを行う。</p>
--------------------	---

(委員)

市の各部署と大学で連携している事業は、連絡を取り合う場合はたつせがある課が仲介しているのか。

⇒各課から直接連絡している。なお、市内4大学に限らず、近隣の大学、富山大学、九州大学等がある。

(委員)

各課が連携している事業はどのようなものがあるか。

⇒長寿課は愛知医科大学とのシニア健康測定会、愛知県立大学との認知症カフェ。教育総務課は愛知教育大学とのボランティア事業、名古屋外国語大学との学習指導の補助。文化の家は愛知県立芸術とのコンサート等の実施がある。

また、4Uのエピソードとして、愛知淑徳大学CCCと連携し、リリモテラスで子ども食堂を実施した。

(委員)

事業の目的を見ると、地域の活力が向上、市のイメージの向上とあるとおり、行政にとってのメリットは見込んでいるが、大学のメリットは何があるのか。大学のメリットがないと、大学からの継続的な協力は得られないのではないのか。

⇒大学生にとって、まちをフィールドワークの場として扱うことができ、学生の経験となる。イベントの受付、炊き出しなど活動は多岐に渡り、そういった活動の経験は就職後に役立つと思われる。

(委員)

大学のメリットというより、学生のメリットが主ということか。

⇒大学のメリットは、研究のための資料が得られることと考える。大学がこれから実施する研究に市や地域が協力することは、研究を進める上で有用なことではないかと思っている。

(委員)

研究の成果に活かされたという結果も、アウトカム指標になり得

	<p>るのではないか。</p> <p>(委員)</p> <p>成果指標について、事業への参加人数としているが、掲げる200人という数字が多いのか少ないのか分からない。そもそもこの事業が求めている成果指標として参加人数はふさわしいのか。</p> <p>⇒数値目標は悩ましい。関心があるかの指標として参加延べ人数としているが、単に人数が増えればいいというわけではないと感じている。</p> <p>(委員)</p> <p>予算の内訳はどのようなか。</p> <p>⇒4大学それぞれに10万円ずつ委託費を計上している。そのほか講師料等があり、全体として50万円程である。一律10万円という予算の付け方について検討中である。</p> <p>(委員)</p> <p>大学に対して情報公開請求すれば成果が分かるのでは。一律10万円が良いのかという点に関しては、それぞれの大学の実施状況を見て判断しては。</p> <p>⇒大学連携の実施状況は、市ホームページで活動報告書として掲載している。</p> <p>(委員)</p> <p>学生の生の声もあれば、まとめておくと良い。</p> <p>(委員)</p> <p>大学側がどう発表しているかについて、市は把握しているか。</p> <p>⇒把握していない。</p>
--	---

講評・まとめ	<p>成果を表す指標について、参加者数では事業の達成状況を図るには少々抽象的であるため、事業の目的に沿った指標を設定できると</p>
--------	--

良い。

大学との連携事業という性質上、市と大学双方のメリットが大きくなるよう、事業形態や予算配分について引き続き検討されたい。